

2022年度の学校評価

本年度の 重点目標	- 主体的に学ぶ姿勢を育み、学力の基礎・基本を養成するための授業改善を推進する。 - 教育活動全体を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることを目指す。 - キャリア教育の理念に立ち、一人ひとりの進路目標の実現に向けて支援体制の充実を図る。 - 円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を維持する。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
広報活動 （総務部）	- 戦略的な広報活動の展開を図る。 - コロナ禍でのPTA活動の在り方を模索する。	- 中学生やその保護者の興味を高める学校案内を作成する。 - ホームページを中心に、本校進学を志す中学生向けの広報活動をより一層推進する。 - 生徒主導の学校説明会を開催する。 - 教職員全員がPTAとの連携を一層強めることで、保護者との信頼醸成を図る。 - 保護者対象の研修会や進路講演会等を可能な限り実施する。	- 学校案内は、管理職と担当者等と報告・連絡・相談を行いながら作成する。 - ホームページを早く更新し、学校行事、部活動の状況、試合結果等の最新情報を掲載する。 - 広報活動では、生徒の活動する状況、PTA活動の様子がわかりやすく伝わるように創意工夫を行う。 - 保護者の期待に添うよう、他分掌と連携・協力を図りながら企画・運営する。
授業の活性化 （教務部）	- 生徒主体の授業実践を目指し、情報機器の活用も含めた授業改善に取り組む。 3年間を見通した指導計画に基づいて「総合的な探究の時間」を実施する。	- 公開授業や研究授業の実施を推進し、授業改善に取り組む雰囲気醸成する。 - 本校が長年組み立ててきた「総合的な学習の時間」の計画をベースとし、外部資源も活用しながら、生徒が自ら課題を見つける活動を支援する。	- 従前の授業の在り方にとらわれず、生徒に適する授業を展開できるようにする。 - 外部の研修などを通して他校の情報も集め、優れた取り組みを積極的に取り入れる。
キャリア教育の推進 （進路指導部）	- 情報提供と情報の整理(全学年) - 進路意識を高める(3年) - 基本的な学習習慣の確立(1・2年)	- 情報誌の配布・配架 - 進路講演会等の実施 - 模擬試験や進路適性検査の活用 - 学年と連携した特別講座等の充実	- 適切な時期に適切な内容の情報誌を配架・配布する。 - LT、総合的な学習の時間を計画的に活用する。 - 担任会、学年会、進路検討会等を活用し、情報交換を積極的に行う。
交通安全 （生徒指導部）	登下校時間をきちんと守らせ、時間に余裕を持たせることにより、通学マナーの向上と交通事故防止を図る。	- 遅刻防止指導を強化し、時間に余裕を持って登下校させる。 - 自転車利用五則を周知徹底させる。 - 安全委員の活動を促して自発的な安全行動を引き出す。 - 交通安全教室を通して、交通ルール的重要性や命の大切さを伝える。	- 安易に遅刻をさせない雰囲気を作り出す。 - 指導体制を整え、職員全体で指導できるようにする。 - 自他の命を大切にするとともに、将来を常に意識した指導を心掛ける。
校内美化 （保健部）	校内美化を推進し、奉仕の精神や社会貢献の意識を育てる。	- 美化委員による全清掃分担区域の点検を行い、点検結果を清掃監督に報告させる。 - 清掃区域や分担など清掃場所の実情に合わせられるように調査し、効果的な清掃ができるよう再考する。 - 職員会議や校内放送を利用して、職員及び生徒に対して、季節・天候などに応じた重点目標を示していく。	- 清掃活動の重要性を担任や学年会を通して生徒に働きかける。 - 生徒一人ひとりの美化意識が高まるよう啓蒙活動を行う。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
学校行事 （特別活動部）	・コロナ対策をしっかりと取りながらも、可能な限り正規の形を失わないように学校祭などを実施する。 ・部活動時間の厳守。	・常にコロナ対策を念頭に置きながら、企画する。 ・生徒会行事は、生徒が自らの手で企画・運営をしていく必要性があることを理解させる。 ・生徒の役割分担を明確にする。 ・時間に余裕の持てる、無理のない計画を立てさせる。 ・部活動の活動場所を巡回する。	・十分な検討時間を確保できるよう計画する。 ・集会等で誰が何をすべきかしっかりと指導をしていく。 ・可能な限り正規の形が崩れないように、場合によっては、学年会など多くの意見やアドバイスをいただく。 ・巡回指導も適宜行っていく。 ・部顧問との連携を密にとっていく。
読書活動 （図書情報部）	・読書啓発（朝読の充実） ・教科における図書館利用の活性化（調べ学習等） ・校務及び授業におけるＩＣＴの利活用	・生徒の図書館利用を促進し、朝読のより一層の充実を図る。 ・公立図書館の団体貸出を利用した教科活動や部活動での利用を促進する。 ・情報機器の整備と充実化を図ると同時に、職員ＩＣＴ研修などのＩＣＴ啓発活動も引き続き行う。	・図書委員を活用し、季節の「図書館イベント」を充実させ、生徒を図書館に呼び込む工夫をする。 ・授業での調べ学習などの図書館利用方法を紹介し、支援する。 ・新型コロナ感染拡大に伴うオンライン学習支援ができる環境を整備する。
基本的生活習慣の確立 （第１学年）	・豊明高校生として必要な基本的生活習慣を確立する。	・「朝読」指導を始めとして、授業規律の遵守や身の回りの整理整頓など落ち着いて学習に向かう環境を作る。 ・授業を中心に、特別講座や模擬試験を交えながら、学習に向かう姿勢を作り、進路意識を高める。 ・行事に積極的に参加させ、学校生活の楽しさを知る。	・集団行動を送る上で必要な、基本的なルールやマナーを守らせる。 ・課題の指示を的確に行い、自宅学習の習慣化を図る。 ・文理選択が適切に行えるように、進路意識を醸成する。 ・学年全体として、行事に積極的に取り組める環境を作る。
中心学年としての役割を果たす （第２学年）	・自らの進路意識を高め、進路目標を具体化する。 ・行事等において中心学年としての役割を果たす。	・適切な時期に必要な進路情報が得られるよう、生徒に情報収集の方法を示す。 ・行事におけるリーダーを育成し学年のけん引力とする。	・キャリア教育を実践するにあたり、視野を広げた選択を意識させるため、オープンキャンパスや進路ガイダンスなど外部の情報も活用させる。 ・総合探究やＬＴの時間を利用して、修学旅行の事前学習や学校祭の企画にじっくり取り組ませる。
進路指導 （第３学年）	・進路指導の充実を図り、それぞれが主体的に選択した進路目標を達成させる。	・授業規律を大切にする。 ・主体的に選択できるように、進路情報を提供する。 ・特別講座への積極的な参加を促す。	・個人面談などを通じて生徒の実態を把握する。 ・進路実現に向けて環境整備を行い、学年全体として、雰囲気作りをする。 ・多様な入試形態に対応できるように、進路指導部と連携を図り、指導する。
いじめ防止対策の推進 （いじめ不登校対策委員会）	・いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 ・いじめの早期発見、適切な事案の対処に努める。	・全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、生徒が主体となっていじめ防止をテーマとした活動を行う機会を設ける。 ・いじめの情報収集、事案対処に係る学校いじめ防止対策組織の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。 ・いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証する。	・生徒がいじめ問題をはじめ、人権についても主体的に考え、自らに関わる問題と捉えられるようにする。 ・学校いじめ防止対策組織の役割を生徒や保護者に周知することで、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう環境づくりを行う。 ・生徒が記入しやすいアンケートの様式や実施方法、その後の組織的な対応の在り方について検討する。 ・情報やアンケート結果に偏らず、職員自ら生徒をバランスよく観察する力量を上げる。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
勤務管理の適正化	・業務の適正化を図り、教職員の健康維持に配慮した体制の維持に努める。	・在校時間等の状況記録の集計結果等を衛生委員会で確認し、1 か月間の時間外労働が 8 0 時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行う。	・教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努め、年 5 日以上年次休暇が確実に取得できるように配慮する。 ・時間外勤務の教職員に、勤務時間の割振り変更を促す。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・生徒が主体的に取り組むための授業改善 ・基本的生活習慣の確立と通学マナーの向上 ・地域に根差した学校にするための具体的取組	